

リゾート会員権価格上昇

低価格帯中心に 年末比2割高く 行楽シーズン控え

リゾートクラブ会員権の取引価格が上昇している。今年に入って価格の安い会員権の需要が回復。一部の主要クラブは昨年末に比べ2割強高い。昨年末までの値下がり割安感が強まり、春の行楽シーズンを前に購入希望が増えてきた。景気が最悪期を脱したとの見方から資金に余裕のある層が購買意欲を高めているようだ。

リゾートクラブ大手のリゾートトラストの「エクスピア」で価格が最も安いクラスの会員権(名義変更料など諸経費を除く)の売却希望価格は現在、伊豆(静岡県)が45万60万円。1月以降は大手仲介会社で少なくとも5件は成約し、品薄感が強い。昨年11、12月は39万45万円でも成約はほとんどなかった。エクスピアの琵琶湖(滋

賀県)は部屋の面積が広いタイプが年末に165万円で買い手がつかなかったが、1月に180万円で購入が成立した。東急不動産の「東急ハーヴェストクラブ」は勝浦(千葉県)が現在、180万円と年末比40万円高い。仲介大手のe会員権(横浜市)によると、1、2月の購入希望の問い合わせは前年同期に比べ

約2割増えた。40歳代の問い合わせが減る一方、50歳代は増えている。会員権市場は2008年の金融危機以降、需要が低迷していた。ここに来て景気の二番底懸念が後退したため、資金に余裕があり将来の生活への不安が少ない層が値ごろ感の強まった会員権の購入を検討し始めたようだ。

一方、500万円を超える高額物件は1年以上も買い手がつかない例も多い。需要拡大は低価格帯の物件に限られている。